

## 第 1 回豊川市空家等対策協議会における主な意見等について

委員意見	方針
<b>(1) 第 1 回豊川市空家等対策協議会における委員からの主な意見</b>	
アンケートに回答していただいた方に対して、もう一度、何らかのアクションや働きかけをした方がよい。回答されなかった方に対しても通知はすべきだと思う。	今後、未回答者への再依頼や、空家に関する支援制度の案内通知等を送付する予定です。
<b>(2) 空家等対策計画（構成案）について</b>	
<b>①「計画の概要」、「現状と課題」、「空家対策の基本的な考え方」</b>	
市内在住の空き家所有者が、空き家の所在地に対し、どの辺りに住んでいるのか。	市内在住の所有者は565件あり、その内空家所在地と所有者住所の中学校区が異なるものが179件ありました。
アンケート回答者のなかで、自分ではもう使用しないが誰かに使って欲しいという人は、働きかけのメインターゲットになり得る。アンケート回答者の40%は何らかの意思があるということなので、働きかけやすいところからやっていくことが良いのではないか。	アンケートの回答者へは、制度の創設などの案内を実施していく予定です。
空き家の立地について、接道状況によっては使いにくいところがあるのではないか。	実態調査の結果では、正面道路が2m未満の空家は26件となっており、中学校区では西部と小坂井が多くなっております。
駅の付近は住みたい方が多いと思われるので、防災面だけでなく、もっと積極的に使ってもらえるような施策ができるが良い。	駅周辺の空家等については、その立地条件の特性を活かした利活用ができるよう、関連部署と連携し、施策を検討します。
住居以外の利用方法を柔軟な考え方で、例えばコミュニティカフェなどがあっても良いのでは。	居住用以外への提案型空家利活用についても検討します。
<b>②「具体的な施策」、「実施体制の整備・進捗状況の管理」</b>	
町内会に正式に依頼して、年に一度空き家の情報を報告してもらうようにすれば、費用をかけずに実態がつかめるのではないか。	地域との連携は重要ですが、町内会への協力依頼については、慎重に進めていきたいと考えております。今後は、市民活動団体等への働きかけも計画しております。
施策の内容が当たり前すぎて面白みに欠けるので、他と違った空き家バンクになって欲しい。	今後、関係団体等と連携していく中で、実現可能な施策の検討をします。

委員意見	方針
<p>学生向けのシェアハウスという案があったが、年代を問わず1人暮らしの人たちが集まって暮らせるものについても検討して欲しい。</p>	<p>シェアハウスにつきましては、利用者の年齢は問わないものと考えております。</p>
<p>市外から多くの人が入居してくれるような、独自の制度ができたら良い。</p>	<p>庁内各所管と連携し、シティセールスも含めた施策の構築が必要です。</p>
<p>補助金よりも税制優遇面での助成が良いとの考えもあり、更地にした場合の小規模住宅用地の特例の据え置き制度もあれば良い。</p>	<p>資産税課と連携しながら検討していきます。</p>
<p>2つの東名高速道路のインターチェンジがある利便性をアピールすれば、子育て世代の方の呼び込みに繋がるのではないかと。</p>	<p>交通アクセスの条件が良いことは、移住促進において大きなメリットになると思います。</p>
<p><b>③「特定空家の取扱方針（案）」</b></p>	
<p>判定について、年代が古い建物は点数がつきやすいので、それを考慮しながら進めると良い。</p>	<p>特定空家の認定に関しては、建物の状態だけでなく、周辺への影響等を勘案して総合的に判断し、協議会の助言・指導を得て慎重に行うこととします。</p>
<p><b>④「空家バンクのイメージ（案）」</b></p>	
<p>不動産業界にも空き家の売却などについての相談は多数あるが、立地条件などにより売れない物件がある。バンク登録については、良い情報があればどんどん捌けると思うが、一方で少し困る面もある。</p>	<p>立地条件などが悪く、老朽化が進んでしまった物件等については、地域交流や福祉関係の所管部署及び関係団体と協力し、地域資源としての有効活用の検討をします。</p>
<p><b>⑤「老朽空家解体費補助制度（案）」</b></p>	
<p>空家等実態調査の結果、「危険」、「注意」というものが89棟あるので、この方たちに上手く働きかけていくのが良いと思う。</p>	<p>これらの方々には、優先的に支援制度の案内を通知し、働きかけをしていく予定です。</p>